

パネルディスカッション①：坪谷氏

「高知県グローバル教育シンポジウム」 パネルディスカッション

テーマ 「国際的な視点をもって地域や国際社会で活躍できる人材とは
～生涯学び続ける力を育む国際バカロレア～」

・パネラー

長谷川壽一氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）

田宮 直彦氏（株式会社日立製作所人財統括本部人事勤労本部長）

松木 秀彰氏（文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長）

石筒 覚氏（高知大学地域協働学部准教授）

長嶺沙綾子氏（IBDP 卒業生・サンディスク株式会社勤務）

・コーディネーター

坪谷ニューエル郁子氏（国際バカロレア機構アジア太平洋地区委員）

（司会）

お待たせをいたしました。それではシンポジウムを再開いたします。どうぞ皆さま、ご着席をお願いいたします。

シンポジウム後半は、「国際的な視野を持って地域や国際社会で活躍できる人材とは～生涯学び続ける力を育む国際バカロレア～」をテーマに、パネルディスカッションを進めていただきます。

最初に、本日のパネリストの皆様とコーディネーターを紹介させていただきます。

まず、パネリストからご紹介いたします。先ほど基調講演をいただきました、東京大学大学院総合文化研究科教授、長谷川壽一先生です。

同じくご講演いただきました、文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長、松木秀彰様です。お願いいたします。

続きまして、日立製作所人財統括本部人事勤労本部長、田宮直彦様です。

高知大学地域協働学部准教授の石筒覚先生です。

そして、国際バカロレア認定校の卒業生で、現在は株式会社サンディスクにお勤めのデバイスエンジニアの長嶺沙綾子様です。

最後に、コーディネーターを務めていただきます、国際バカロレア機構アジア太平洋地区委員で、東京インターナショナルスクール理事長でいらっしゃいます、坪谷ニューエル郁子様です。

皆様よろしくお願いいたします。

では、ここまでの講演においても出てまいりました「国際バカロレアとは」。このパネルディスカッションのサブタイトルでも出てまいりましたが、どういうものであるのか改めて坪谷様の方からご紹介をいただきたいと思います。お

パネルディスカッション①：坪谷氏

願いたします。

(コーディネーター・坪谷ニューエル郁子)

皆様こんにちは。ただいまご紹介に預かりました国際バカロレアアジア太平洋地区委員をしております、坪谷ニューエル郁子でございます。

これから15分間、「国際バカロレアの概要」についてお話をさせていただきます。既にお聞きいただいたところもありますけれども、どうぞご容赦ください。

国際バカロレアは、1968年スイスのジュネーブで設立されました非営利の教育機関です。(資料p2) その当時、スイスのジュネーブはたくさんの国際機関が集まっていたことから多国籍の子どもが通う学校があったんですね。その中、大学の入学試験になると、世界各国いろいろな入学審査の方法があるため、これを解決しようじゃないかということが一つの目的で、世界共通の成績証明書をつくらうということで最初に生まれたのが、ディプロマ・プログラム大学入学準備コースです。またその当時、その前にヨーロッパは2つの大きな力に分かれまして、第二次世界大戦というものがありましたので、教育の理念を一国主義から世界平和へ変えていく。この2つの目的のために生まれました。現在では147カ国とありますが、実はイラクの北部の学校が今閉校されておりますので、146カ国、現在120万人の生徒が世界中で、この国際バカロレアの勉強をしております。

次に、国際バカロレアの命とも言うべき理念なんですけれども(資料p3)、「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」、これが目的となっております。また、生徒たちは、「人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、そして積極的に共感する心をもって生涯にわたって学び続ける」、このような人材を育成していくという全人教育、これが国際バカロレアです。

先ほど、文科省の松木室長からもお話がありましたけれども、「国際バカロレアの教育はどんな人材を育てるのか」というのが(資料p4)、この10の資質、力、学習者像に現れています。まずは、「探究する人」、探究をする力ですね。そして「知識のある人」、「考える人」、「コミュニケーションができる人」、「信念を持つ人」、「心を開く人」、これは柔軟性ですね。「思いやりのある人」、「挑戦することを恐れない人」、「心身ともにバランスのとれた人」、そして「振り返りができる人」、この10の能力、この資質を育てていくのが国際バカロレアの教育です。

プログラムは、実は4つに分かれておりまして(資料p5)、小学校にあたるプログラムが「PYP (Primary Years Programme)」と呼ばれております。そし

で中学にあたるプログラムが「MYP (Middle Years Programme)」,そして大学入学準備コースが「DP (Diploma Programme)」。近年、2012年にできましたのが、「CP (Career-related Program)」というものですが、このCPは、必ずしも全員の生徒が大学に行くわけではない学校で、社会や専門学校に入る生徒のために作られた最新のプログラムでございます。

世界の中で、今この国際バカロレアの導入校は近年大変な伸びを見せております。(資料 p 6)これが6年弱で、どれぐらい世界の中で導入している学校が増えたのかといったところですが、ディプロマ・プログラム、大学入学準備コースは1,070校増えております。そして、伸び率として一番高いのは実を言いますと、小学校にあたります初等教育プログラム。これが約250%、2.5倍の伸びで数が増えております。

それでは、日本はどんな動きなのでしょう。(資料 p 7)日本では、平成25年6月に閣議決定いたしましたのが、国際バカロレアの認定校を大幅に増加する。2018年前までに200校、これを目指そうということが決まりました。また、今日いらしていただいています、日立の田宮さんが属しております経団連でも(資料 p 8)、「国際バカロレアのディプロマ・プログラムは、グローバル人材を育成するうえで有効な手段の一つである。大学入試における活用のみならず、企業も採用時や人材活用において適切に評価することが必要」ということを提言なさっております。

ここでちょっと大学入学コース、ディプロマ・プログラムのカリキュラムの説明をいたします。(資料 p 9)

特徴は、文系・理系に分かれてなく両方とも学習する「リベラルアーツ」といったところが特徴かと思えます。科目は6つに分かれておまして、1番目が(資料 p 9『1. 言語と文学』)母国語、日本ですと国語にあたります。2番目が(資料 p 9『2. 言語習得』)外国語、日本の場合はほとんどが英語をとることになるかと思えます。3番目が(資料 p 9『3. 言語と文学』)社会科、このうち赤で書いてある経済、地理、歴史が日本語で学習をし、なおかつ、最後の卒業試験も日本語で受けることができます。そして4番目が(資料 p 9『4. 実験科学』)理科です。理科は生物、科学、物理が日本語で受けられます。そして5番目が(資料 p 9『5. 数学とコンピューター科学』)数学、6番目(資料 p 9『6. 芸術』)が芸術、芸術は音楽と美術が日本語で受けられます。

それ以外にも、コアと言われるものがありまして(資料 p 10)、まず一つ目が課題論文、これは大学の卒論に非常に近いものですね。自分が選びますハイヤーレベルと呼ばれる上級の科目の中より一つを選びまして、日本語では8,000字の論文を書きます。2つ目が知の理論、TOK (Theory of Knowledge) と呼ばれているものですが、これは学際的な視点から論理的思考力を育成するという目的で、最終的には小論文とプレゼンテーション、これがアウトプット

になってきます。3つ目が、Creative、Action、Service、私たちは「CAS」と呼んでおりますが、Creativeの「C」は創造性、これは文化的な活動ですね。そしてAction、これはスポーツの活動です。そして最後のSがService、これは奉仕活動です。この3つをやらなくてははいけません。ちなみに、私の娘はミュージカルをやり、そしてサッカーをやり、サービスはストリートチルドレンのお世話をするといったことをやってまいりました。

これら全てが高校3年生のときに、3週間近くの12日間にわたる記述を中心とした非常にアナログな卒業試験を受けます。(資料p11)各科目が1科目7点で合計42点。先ほど言いました課題論文と、それからTOK、そしてCASが各3点で45点満点です。このうち24点以上で修了書がもらえることとなりますが、過去36年間平均点がずっと30点、これがぶれないというところが、世界の大学の中でも非常に国際バカロレアの成績のスコアに対しての高い信頼を得ているということに繋がっております。世界的には24点以上取れる生徒というのは、約8割なんです。日本人は大変優秀ですので、今までのこの国際バカロレアの修了試験を受けた日本人の修了率が92.8%となっております。そして、世界同一の日に卒業試験が行われます。主として北半球は5月、そして南半球は11月なんです。日本の1条校(※注1)の場合は11月南半球のスケジュールに合わせて統一試験を行うということで予定されてます。

では、世界の大学ではこのスコアをどのような形で大学入学審査に利用しているのかといいますと(資料p12)、「英国式」と「米国式」に別れます。英国式というのは、オーストラリア、インド、ニュージーランド、スペイン、他の国々もそうなんですけれども、それぞれの国にある試験、日本でいうとセンター試験のようなものとの換算表ができております。これは英国の例ですが、例えば、英国のタリフのポイントが676点の場合は、国際バカロレアのスコアとして43点というふうに読み取るよと。逆も同じで、43点は676点というふうに読み取るよということになっております。

米国式は(資料p13)、米国では高校での学業をこの子は終えたよ、そして大学に一応入るだけの能力はあるよということで、SAT(Scholastic Assessment Test: 大学進学適性試験)という共通試験を受けなければいけないんですが、このSATは中身自体がそれほど難しくないで、生徒の点数の差が余りでないんですね。したがって、上位の大学になればなるほど、アメリカ独自にある「AP」というアドバンスプレイスメントと言いますが、もしくは、この「IB」のスコアを見るといった大学が非常に多いです。あともう一つの特徴は、米国の場合はスコアによっては大学4年が1年間は飛び級しますよということで、3年で大学を終わらせると。いわゆる単位を最初から認めるという大学がたくさんあります。

さて、国際バカロレアの修了生は、どんなところの学部を選んでいっている

パネルディスカッション①：坪谷氏

のでしょうか。(資料 p 14) これは 2011 年、2012 年のデータですが、まず一番多いのが医学部、次が工学部、次がビジネス、次が医学関連の専門分野、そして、芸術、演劇、映像、そして心理学というふうが続いております。こういつて見ていただくと、理系も文系も両方の学部に進んでいることが分かります。

日本の大学におきましては(資料 p 15)、教育再生実行会議の第 4 次提言で入学者選抜において、国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図ると。国はそのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進するということが謳われました。その結果、先ほど文科省の松木室長からもこの表がでましたけれども、現時点で国際バカロレアを活用した大学の一覧表がこのとおりです。今年の 4 月には、岡山大学や筑波大学の医学部に国際バカロレアのスコアで入っております。また、今日基調講演をされました、長谷川先生の東京大学も来年から法学部と教養学部の方で推薦入試ということで門が開いております。多分、今日ご出席の石筒先生の高知大学もあと数年で、ここの(資料 p 16) 一番右側の表に入ってくるのではないかというふうに、私も期待をしております。どうぞよろしく願いいたします。

また、国立大学が加盟しております国立大学協会というのがあるんですが、そこでこのシルバーウィークの間にアクションプランというのをお出しになりました。(資料 p 17) このアクションプランによりますと、2021 年までに国際バカロレア入試なども含んだ推薦入試やアドミッション・オフィス入試を、入学定員の 30% を目標に拡大するというのを盛り込んでおられます。こういった形で今後ますます大学の門が開き続けていきます。したがって、安心して国際バカロレアの学習をしていただき、そして安心して国公立及び私立の大学もたくさんの門が開いておりますので、大学に進んでいただくことができるというのが今の現状でございます。

大変短い時間ではございましたけれども、国際バカロレアの概要について説明いたしました。どうもありがとうございました。

(司会)

坪谷様ありがとうございました。

(※注 1) 1 条校とは

学校教育法第 1 条で規定されている学校が、国際バカロレアの認定校になるためには、学校教育法等関係法令と国際バカロレア機構の定める教育課程の双方を満たす必要がある。各学校においては、学習指導要領が定める各教科等の目標、内容と国際バカロレアのカリキュラムの内容を比較し、国際バカロレアのカリキュラムに学習指導要領が定める内容を補うなどして、両方の内容を適切に取り扱えるよう、

パネルディスカッション①：坪谷氏

教育課程を工夫して編成・実施することが求められる。（文部科学省ホームページより）